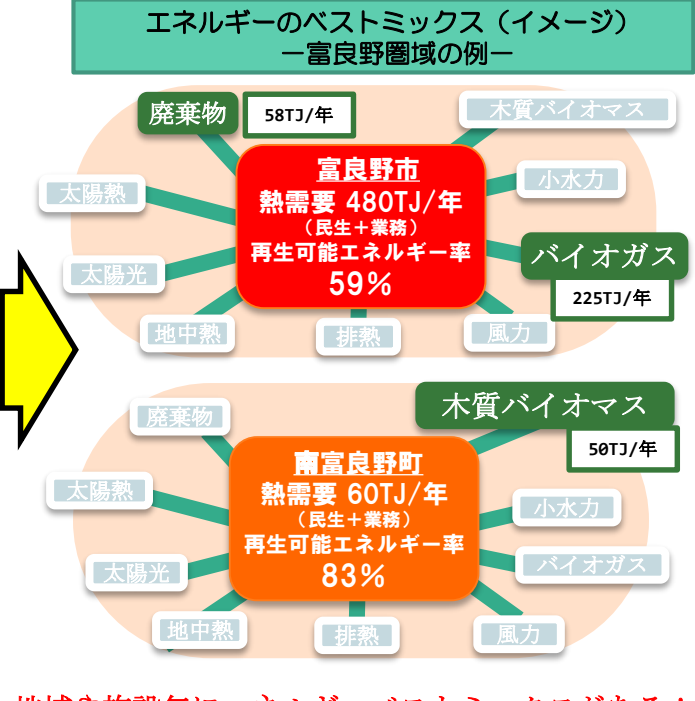


各地域の特性に合わせた再生可能エネルギー利用モデルを考える

地域におけるエネルギーのベストミックスとは？

背景 ○北海道内には、太陽光や風力等の自然エネルギーや、燃料として活用可能な廃棄物等が豊富にあります。現在はそれらを十分に有効活用できていません。
 ○道内の各地域でそれらのエネルギーを効果的に活用するためには、各地域の実情に応じたベストミックスを実現しうるエネルギー利用モデルが必要です。

概要



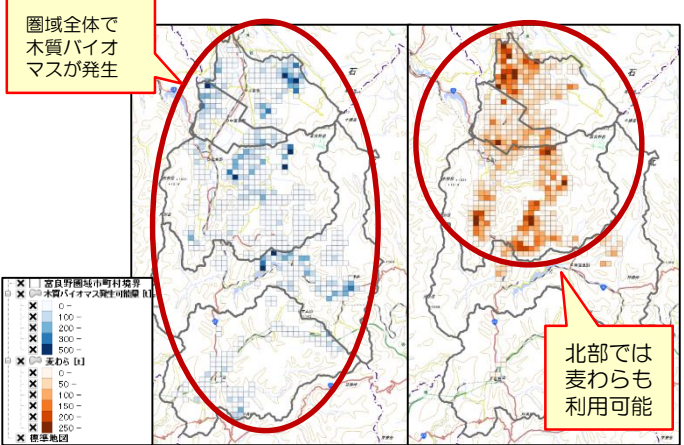
地域や施設毎にエネルギーベストミックスがある！

成果

1 (しめす) 地域に点在するエネルギーを地図上で見える化

誰もが使える地理情報システム (GIS) の整備

例：富良野圏域における木質バイオマスの発生可能量と、麦わらの賦存量



2 (つくる) 地域に点在するエネルギーの利用技術開発

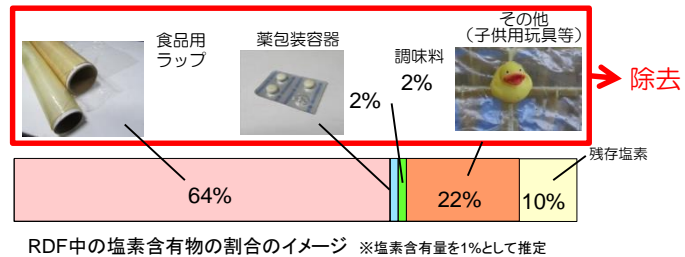
可燃ゴミを原料とした燃料 (RDF) 利用技術

・富良野市では年間2,500tのRDFを製造。
 (公共施設の熱需要の約8割)



・小型燃焼器でRDFを利用するには、ダイオキシン類の発生原因となる塩素の含有量の低減が必要。

・ゴミ中の**食品用ラップ等の除去**で塩素含有量を大幅に低減できる可能性を見出しました。



RDF中の塩素含有物の割合のイメージ ※塩素含有量を1%として推定

期待される効果

- ▶ 地域のエネルギー特性や利用手法を提示することで、自治体による地域エネルギービジョンの策定と実現
- ▶ 地域のエネルギー利用モデルを提示することで、エネルギー関連産業の振興、新たな産業や雇用の創出